

## 飛騨農林事務所の普及活動（飛騨版）

令和元年6月25日現在

### 今月の重点活動

#### ■新規就農者 **新規就農者激励会を開催**

6月20日（木）、高山市において指導農業士会、青年農業士会、飛騨農林事務所主催で「新規就農者激励会」を開催した。高山市・飛騨市・農業大学校・飛騨高山高校、農協等関係機関からも多数の出席があり総勢61名と盛大な激励会となった。

当日は激励会対象者34名の新規就農者のうち19名が出席し、「沢山儲けて、高級車に乗りたい。」「安定した収量を取り、品質の高い作物を育てたい。」「将来は規模拡大し、納得のできるトマトを作りたい。」など、建設的な意見がたくさん出された。

農業普及課では、開催までの企画・調整及び当日の運営支援を行い、今後も経営を安定させ営農定着できるよう支援していく。



【参加者全員でパチリ】

### 新たなブランドづくり

#### ■夏秋トマト **トマト新品種の生育特性把握のため土壌溶液調査開始**

飛騨野菜出荷組合トマト部会では、H29年度から新品種「麗月」が導入されており、近年作付面積が増加している。麗月は、裂果は少ないが小玉傾向になるといった生育特性がある。

農業普及課では、麗月の生育特性を把握し、品種にあった栽培技術を確立するため、土壌溶液調査を開始した。

今後は、施肥量やかん水量、玉流れなどのデータ収集を行うとともに土壌溶液の分析結果をもとに生育状況を把握していく。



【土壌溶液調査の様子】

#### ■にんにく **現地研修会を開催！**

飛騨地域では丹生川町を中心に、にんにく栽培が行われている。5月30日（木）に丹生川町内の現地圃場において、生産者12名が参加し、現地研修会が開催された。

農業普及課からはとう摘み、収穫適期の判断、乾燥方法、薬剤選定等について説明を行った。特に、去年は乾燥時における腐敗が問題となったことから、その対策について重点を置き説明した。

参加者からは、とう摘みのタイミング、さび病の防除等について質問があり、回答を行った。

農業普及課では、今後も安定生産、品質向上等に向けた丹生川野菜出荷組合野菜部会ニンニク班の取り組みを支援する。



【現地研修会の様子】

## 多様な担い手づくり

### ■ 飛騨地域トマト研修所 5期生の就農候補地調査を実施

4月から研修を開始した5期生は、トマトの定植作業を終えるなど順調に研究カリキュラムに取り組んでいる。就農にむけてのスケジュールでは、7月中旬に就農地の選定（飛騨市による斡旋）をすることとされていることから、関係機関（トマト研修所、飛騨市、農業普及課）による就農候補地の調査が実施された。調査では、日照や水利条件及びハウス建設位置等の検討が行われた。最終的な決定までには、研修生自ら農地を確認する機会も予定されている。



【就農候補地における検討状況】

### ■ 夏秋トマト 飛騨3Sシステム研究会開催

中山間農業研究所で開発され飛騨管内で現地実証が進められている、夏秋トマト「3Sシステム」の飛騨地域の研修会が6月5日（水）に行われた。

現在、高山市内で現地実証を行う4戸の生産者に加え、導入を計画する生産者や地元の飛騨高山高等学校の学生も参加して、中山間農業研究所と高山市の現地実証ほ場で栽培の特徴や地域での改良点など研修を行った。

参加した学生は来年度の導入に向けしっかりメモを取るなど、真剣な様子うかがえた。



【ほ場見学の様子】

### ■ 第三品目振興・担い手対策 朝市連合総会でイラスト解説つき飛騨野菜簡易栽培暦発表

6月11日（火）、飛騨総合庁舎で朝市・直売所、関係者12名が出席して飛騨地域朝市連合総会が開催された。事務局を務める農業普及課は、農薬の安全使用や有害植物の扱いについての研修を行った。また新たに作成したイラストつき、野菜の育苗方法・畝立てやマルチの張り方・霜よけの方法等の具体的で基本的な技術を加えた、見開きA2の飛騨の野菜41種類の簡易栽培暦を配布した。

多くの朝市・直売所では、出荷者の高齢化や品目・出荷量の減少が続いており、対策が求められていたため本資料により家庭菜園の愛好者を増やすことで、朝市・直売所への出荷者を増やすことがねらいである。本資料は家庭菜園の愛好家からは好評を得ており、この中から農産物を出荷する農家が育つことが期待される。予備に増刷していた資料100部はすぐなくなった。



【つまづき少なく農業界へ】

## ■ 4 Hクラブ 高山4 Hクラブ第2回役員会を開催

高山4 Hクラブは、高山市の若手農業者の仲間づくりを目的とした組織であり、平成31年度6月現在の会員数は52名である。

役員会では、今年度の夏の交流会、農業フェスティバルと勉強会各種事業について話し合った。夏の交流会では、各支部で声をかけたたくさんの参加を期待している。農業フェスティバルでは今年度も「ぜひ参加したい!!」と役員さんからの声があった。勉強会では、今年度はインターネット関係の内容にし、ホームページでの農業の情報発信ができるというのではという声があった。

4 Hクラブでは会員の行事への積極的な参加を呼びかけ、若手農業者の交流を深めていきたい。

## 売れるブランドづくり

### ■ 古川町大豆生産組合 大豆の播種が始まる

飛騨市古川町内の5営農組織からなる古川町大豆生産組合では、6月中旬から梅雨の合間を利用して大豆の播種作業が始まった。今年から品種を全面的に切り替えて、これまで試験的に栽培してきた新品種「里のほほえみ」の種子を使って播種作業が行われている。

農業普及課では、播種前の6月4日（火）に開催された栽培研修会で新品種「里のほほえみ」の播種作業時の留意点や帰化アサガオ対策について指導を行い、高品質大豆の安定生産に向けて支援をおこなった。今後は8月に開催が予定される現地検討会等で指導を徹底し、大豆の生産振興に向けて支援を継続していく。



【大豆の播種作業】

### ■ 果樹 飛騨桃産地交流会を開催

6月14日（金）、JAひだ果実出荷組合協議会は、飛騨桃産地交流会を開催した。

交流会では、市場4社の担当者やJA職員、中山間農業研究所研究員、農業普及課職員が飛騨管内5つの組合を巡回した。その際に、市場からは今年産の青果物の流通状況や産地への要望について、生産者からは今年産の作柄について情報が提供され、意見交換がなされた。

農業普及課では、今後も引き続き関係機関と連携しながら、果樹産地全体の栽培技術向上および産地PRへの取り組みを支援していく。



【産地交流会の様子】

## ■ G A P ひだG A P 推進研修会始まる

飛騨野菜出荷組合では県G A Pに準拠した「ひだG A P」に取り組みされており、ひだG A P 推進研修会が6月17日（月）を皮切りに各地域において開催されている。

農業普及課より、昨年のチェックリストの結果、今後の改善・取り組み方について説明を行い、生産者みずから経営を見直し自己チェックが行われた。

農業普及課ではG A P 導入推進による生産者の経営改善に向けた支援を引き続き行っていく。



【研修会の様子】

## ■ 宿儺かぼちゃ 現地研修会を開催！

宿儺かぼちゃ研究会は、飛騨及び下呂地域の宿儺かぼちゃ栽培者で組織され、平成31年4月現在の会員数は181名である。

研究会主催による地域別栽培研修会が6月5日から7日にかけて、高山市久々野町、高山市丹生川町、飛騨市古川町の3会場で開催され、延べ約110名が参加した。

農業普及課からは、摘芯・整枝等の栽培管理や病害虫対策等の説明を行い、昨年において減収の要因となった腐り果及び日焼け果の防止について指導を行った。

また、現地圃場で実物を用いて摘芯や4本仕立ての方法について理解を図った。

農業普及課では、収穫までの栽培管理指導等の支援を行っていく。



【現地圃場研修の様子】

## ■ 春菊 吉城春菊部会目揃え会

吉城野菜出荷組合春菊部会が栽培する春菊の出荷がいよいよ出揃ってくるため、6月3日（月）に出荷目揃え会が開催された。市場からの出荷規格に対する要望事項などについて検討がされた。農業普及課からは、芯枯れ症発生低減に向けた調査・今後の気象・病害虫管理について説明を行った。

また、10日（月）には、東京から市場関係者が来県し、圃場視察を行った。市場・生産者で、安定出荷や販路拡大について活発な意見交換がされた。今後も春菊の安定出荷に向けて調査・指導を行っていく。



【圃場視察の様子】